

和文誌「藻類」原稿執筆要項

1. 原稿の構成

原著論文・総説・ミニレビュー・学術資料の構成は 1) ~ 5) の通りである。記事については最新号を参照して作成する。

1) 投稿票

日本藻類学会 WEB サイト (<http://sourui.org/publications/index.html>) よりダウンロードし、必要事項を記入する。

2) 表題等

和文：表題、著者名、所属、所属所在地、柱（20 字以内の短縮表題と著者名の略）

英文：著者名、表題、要約（総説は 300 語以内、原著論文は 200 語以内、短報・ミニレビュー・学術資料は 150 語以内。著者責任で英文校閲を受けるなど、スペルミスや文法上の誤りがないようにお願いします）、キーワード（アルファベット順）、所属とその所在地

3) 本文

緒言、材料と方法、結果、考察（または結果と考察）、（謝辞）、引用文献の順で見出しをつけて記述する。短報ではこれらの項目を区別せず、総説・ミニレビュー・学術資料などについても区別しなくても良い。本文中の文献、図および表の引用例：「…が知られる（Abbott & Hollenberg 1976, 横濱 1983, 2011, Yokohama 1989, Yokohama *et al.* 1980, 1987, 1992)。」、「岡村（1936）および鈴木（2017）には…と記載されている。」、「…がみられる（芹澤ら 2019a, b, 仲田ら印刷中）（Fig. 2)。」、「…上に出現した（Figs 4-8, Table 3)。」。本文中の文献は基本的には年代順に記載するが、単著や複著でまとめられる場合にはまとめて記す。同一年に発表された同一著者または同一筆頭著者で共著者が 3 名以上の文献については、発表年の後にアルファベットを付与する。「*et al.*」はイタリックにする。

4) 引用文献

本文中で引用したすべての文献を下記の例にならひ、和文論文も含めて著者名のアルファベット順に並べる。著者が複数の場合、2 番目以降の著者のアルファベット順とする。著者が 7 名以上の場合には、最初の 3 名に「ら」または「*et al.*」を付して省略する。なお、先行公開された電子版を引用する場合にはその DOI を記載する。冊子媒体が印刷され、電子版と冊子媒体で発表年が異なる場合には冊子媒体の発表年を引用する。引用文献に DOI がある場合はその情報を加えても良い。同一年に発表された同一著者または同一筆頭著者で共著者を含め 3 名以上の文献については、発表年の後にアルファベットを付与する。WEB サイトを引用する場合は、更新日と閲覧日を記入し、更新日の年を発表年とする（更新日の記載がない場合には閲覧日の年を発表年とする）。巻号を記載するときは、同じ巻の中で号で頁番号が振り直しになる場合は巻（号）を記述し、通し頁のものは号を省略する。また、巻がなく、号だけの雑誌の場合には、号番号のみを括弧に入れずに記述する。

例 1) 単行本の場合

Abbott, I. A. & Hollenberg, G. J. 1976. Marine algae of California. Stanford University Press. Stanford, California.

原慶明・千原光雄 1987. ラフィド藻。日本資源保護協会（編）赤潮生物研究指針。pp. 544-566. 秀和、東京。

岡村金太郎 1936. 日本海藻誌。内田老鶴圃、東京。

Phillips, J. A. 2007. Heterokontophyta: Phaeophyceae. In: McCarthy, P. M. & Orchard, A. E. (eds.) Algae of Australia: Introduction. pp. 264-287. ABRIS, Canberra & CSIRO Publishing, Melbourne.

例 2) 学術雑誌の場合

Bellgrove, A., Nakaya, F., Serisawa, Y. *et al.* 2019. Maintenance of complex life cycles via cryptic differences in the ecophysiology of haploid and diploid spores of an isomorphic red alga. *J. Phycol.*: doi.org/10.1111/jpy.12930 (注：電子版未発表の場合は、発表年の代わりに in press と表記する)

Bellgrove, A., Nakaya, F., Serisawa, Y. *et al.* 2020. Maintenance of complex life cycles via cryptic differences in the ecophysiology of haploid and diploid spores of an isomorphic red alga. *J. Phycol.* 56: 159-169. doi.org/10.1111/jpy.12930 (紙媒体が出版された後)

Curtis, B. A., Tanifuji, G., Burki, F. *et al.* 2012. Algal genomes reveal evolutionary mosaicism and the fate of nucleomorphs. *Nature* 492: 59-65.

芹澤如比古・中村誠司・加藤将ら 2019a. 富士北麓、河口湖における水草・車軸藻類と湿生植物の分布状況—2017 年—。富士山研究 13: 17-27.

芹澤如比古・渡邊亮・中村誠司・原野晃一・芹澤（松山）和世 2019b. 水草研究会第 39 回全国集会のフィールドワークで精進湖、本栖湖、河口湖から確認された水生植物。水草研究会誌 108: 13-25.

横濱康継 1983. カロチノイドからみた緑藻類の生育と進化（緑藻類の系統と進化）。遺伝 37(5): 24-30.

Yokohama, Y. 1989. Vertical distribution and photosynthetic pigments of marine green algae. *Korean J. Phycol.* 4: 149-163.

横濱康継 2011. 海藻という植物（最終回・21）海辺の「オアシス」。海洋と生物 33: 78-91.

Yokohama, Y., Hirata, T., Misonou, T., Tanaka, J. & Yokochi, H. 1992. Distribution of green light-harvesting pigments, siphonaxanthin and siphonin, and their precursors in marine green algae. *Jpn. J. Phycol.* 40: 25-31.

Yokohama, Y. & Misonou, T. 1980. Chlorophyll *a:b* ratios in marine benthic green algae. *Jpn. J. Phycol.* 28: 219-223.

Yokohama, Y., Tanaka, J. & Chihara, M. 1987. Productivity of the *Ecklonia cava* community in a bay of Izu Peninsula on the Pacific Coast of Japan. *Bot. Mag. Tokyo* 100: 129-141.

例 3) WEB サイトの場合

鈴木雅大 2017. ハネモ目。生きもの好きの語る自然誌、写真で見る生物の系統と分類。2017 年 4 月 16 日更新（2020 年 7 月 15 日閲覧）。http://tonysharks.com/Tree_of_life/Eukaryote/Plantae/Bryopsidales.html

Guiry, M. D. & Guiry, G. M. 2020. *Codium fragile* (Suringar) Hariot 1889. *AlgaeBase*. (Accessed July 15, 2020). https://www.algaebase.org/search/species/detail/?species_id=3638.

5) 図と表およびその説明

印刷される図表の幅は、1 カラム使用で最大 8.6 cm、2 カラム使用で最大 17.8 cm であり、図表の縦は、最大で 24 cm となる。図表のそれぞれのファイル名には図表を表示したい幅のカラム指定を必ず行うこと [例：Fig 1 (2 カラム), Fig 2 (1 カラム), Fig 3 (2 カラム)]。図には倍率を示すスケールを入れ、必要に応じて矢印や文字などを貼り付ける。図表の説明は基本的に英文とするが、著者の希望があれば和文のみや、和英併記も認める。なお、転載許可を得た図表を引用する場合には、転載許諾済みであることを図表の説明に記述すること（例：日本藻類学会より転載許可を得て Yokohama *et al.* (1992) より転載；reprinted from Yokohama *et al.* (1992) with permission from the Japanese Society of Phycology)。

2. 原稿作成時の注意事項

以下の点に注意して原稿を作成すること。

- 1) 本文中の句読点は「、」と「。」を用い、「、」や「。」を使用しない。「、」は、和文では全角、欧文では半角にする。
- 2) 全角の数字・アルファベットや半角のカタカナを使用しない。
- 3) 学名の使用は最新の国際藻類・菌類・植物命名規約に従う。
- 4) 本文中ではじめて使用する藻類の種・種内分類群の学名には著者名をつける。属名と形容語（種小名など）はイタリックにする。
- 5) 単位系は SI 単位を基本とし、% や ‰, °C 以外の単位は基本的に数値との間に半角スペースを入れる。原稿中で使用できる主な単位と省略形は次のとおり：時間 h, min, s；長さ m, mm, μm , nm；重量 g, mg；容積 L, mL；温度 °C；波長 nm；光強度 Wm^{-2} , $\mu\text{mol m}^{-2} \text{s}^{-1}$
- 6) 委員長が必要性を認めた場合には、図、表、動画などの補足資料（上限 100Mb）を日本藻類学会のサーバー上に置いて公開することができる。

3. 原稿の校正

著者校正是初校の 1 回のみとし、PDF ファイルを E-mail で添付するので、PDF ファイル閲覧ソフトで画面上もしくは印刷して校正し、その結果を電子メールで編集委員長が提示した期日までに編集委員長宛に返送する。校正はレイアウトおよび図表の解像度やズレ、提出ファイルからのデータ変換が正しく行われているかを確認するにとどめる。

(2023 年 3 月 10 日改定)